

3 道路

(1) 歩道 ②

● 整備例

● 条例による整備基準

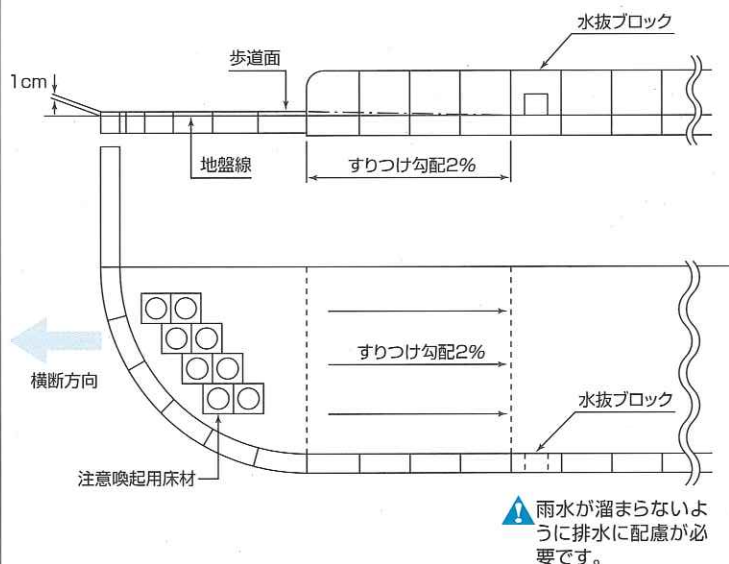
無印 標準的な寸法や配慮の例

▲ 参考事例等

⊗ 注意マーク

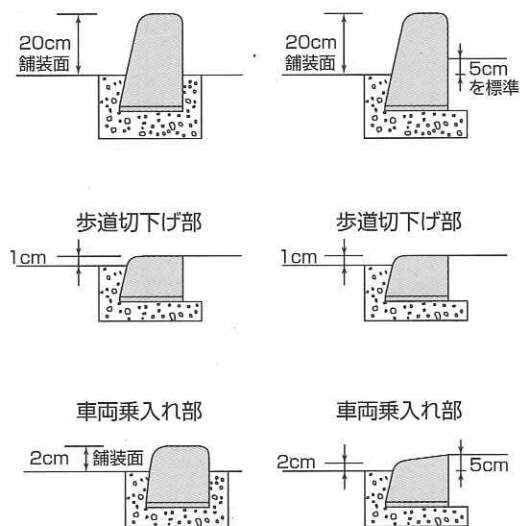
フラット形式とする場合のすりつけ例

視覚障害者誘導用床材が敷設されない場合

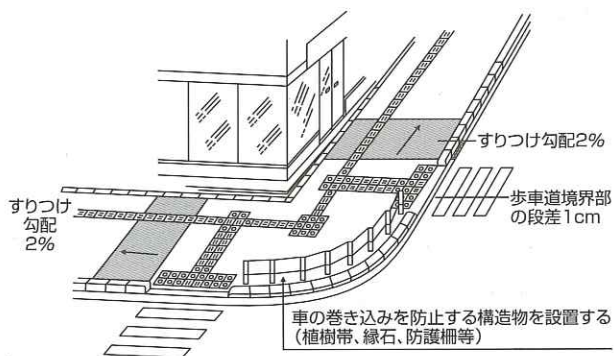


フラット形式

セミフラット形式

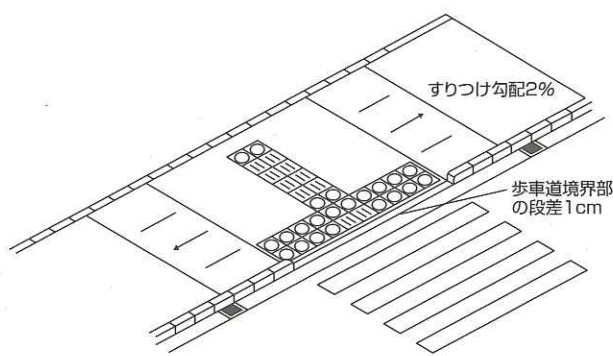


交差点部の構造の例



横断歩道部のすり付けの例

(視覚障害者誘導用床材が敷設されない場合)

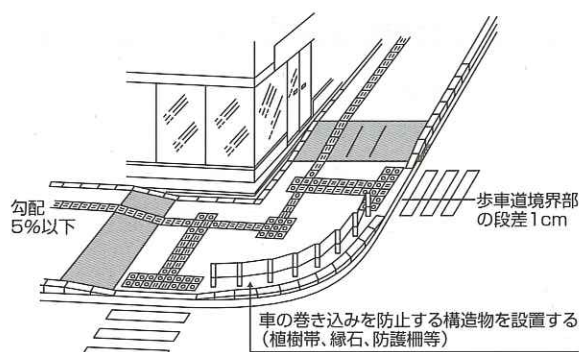


▲ 視覚障害者誘導用床材、注意喚起用床材についてはP.169〔視覚障害者誘導用床材・注意喚起用床材〕参照

沿道状況等によりやむを得ずマウントアップ形式とする場合の切り下げ例

交差点部の構造の例

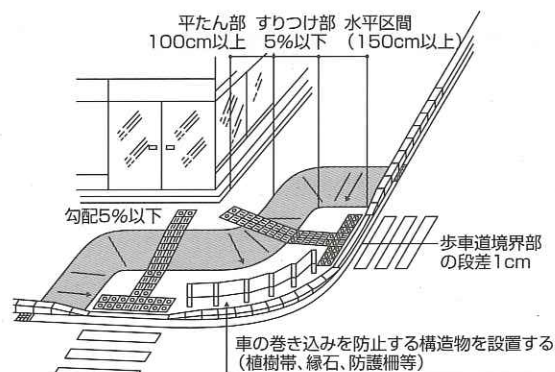
全幅にわたり切り下げた場合の例



⚠ 沿道家屋に影響のない箇所においては、交差点全域にわたり切り下げる構造とします。

一部を切り下げた場合の例

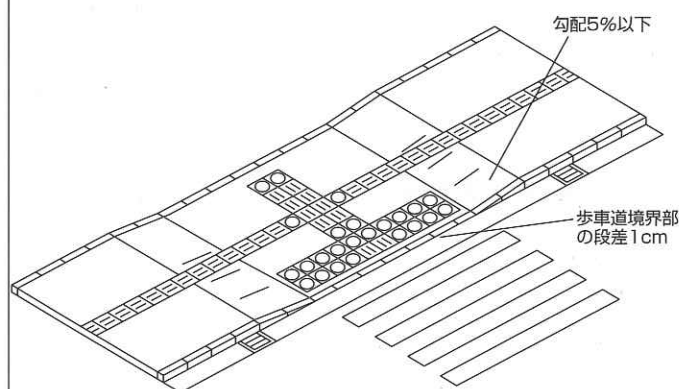
(視覚障害者誘導用床材が敷設されない場合)



⚠ 広い歩道幅員を有する歩道どうしが交差し、全域で切り下げた場合、沿道家屋へ影響が出るような箇所においては、幅員100cm以上の平坦な歩行者動線を確認しながら一部を切り下げる構造とします。

横断歩道部のすり付けの例

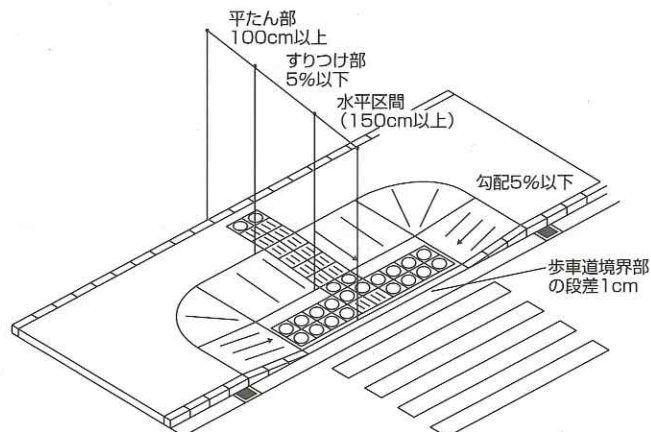
全幅にわたり切り下げた場合の例



⚠ 沿道家屋に影響のない箇所においては全幅を切下げて、水平区間を確保する構造とします。

一部を切り下げた場合の例

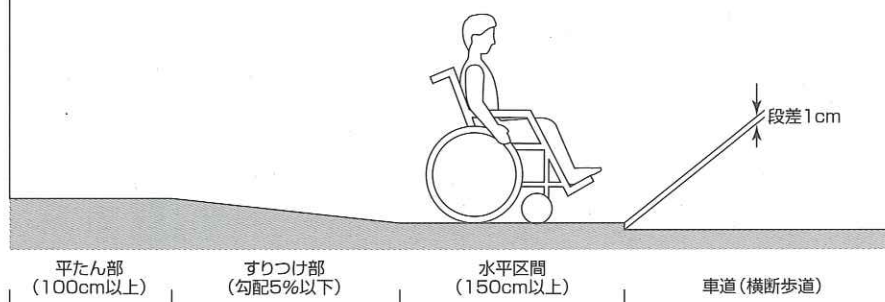
(視覚障害者誘導用床材が敷設されない場合)



⚠ 広い歩道幅員を有する歩道で、全域で切り下げた場合、沿道家屋へ影響が出るような箇所においては、幅員100cm以上の平坦な歩行者動線を確認しながら一部を切り下げる構造とします。

水平区間の考え方

沿道家屋



⚠ 車いす使用者が、安定して安全に信号待ちできるよう、水平区間を設けます。

3 道路

(1) 歩道 ③

● 整備例

● 条例による整備基準

無印 標準的な寸法や配慮の例

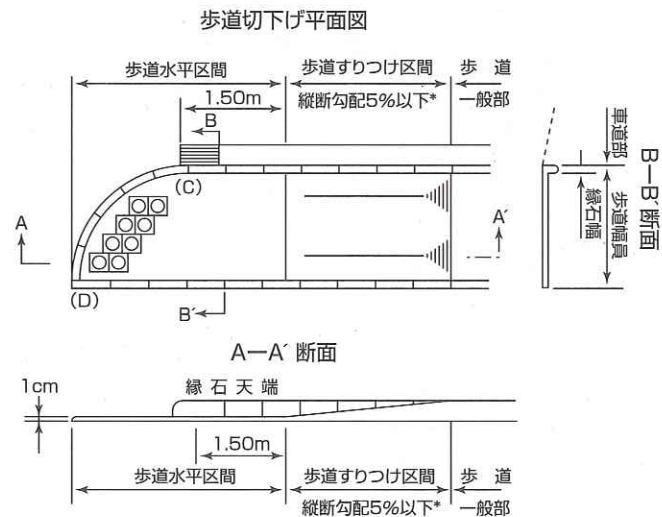
▲ 参考事例等

⊗ 注意マーク

沿道状況等によりやむを得ずマウントアップ形式とする場合の巻き込み部における構造の例

幅員が狭い場合

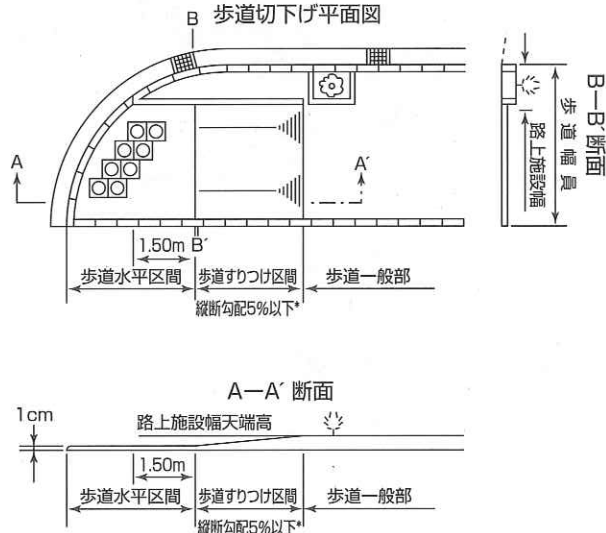
視覚障害者誘導用床材が敷設されない場合



▲ 歩道水平区間については、巻込始点(C)からすりつけ区間との間に1.5m程度設けることが望ましい。このように設けられない場合には、巻込終点(D)から1.5m以上設けます。

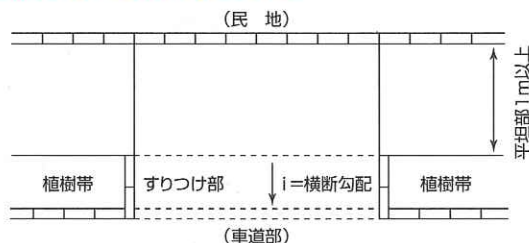
幅員が広い場合

視覚障害者誘導用床材が敷設されない場合

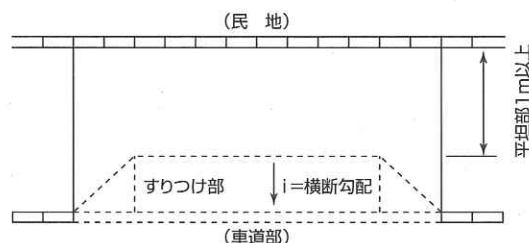


沿道状況等によりやむを得ずマウントアップ形式とする場合の車両乗り入れ部の例

植樹帯等の幅員内ですりつけを行う構造



歩道内においてすりつけを行う構造



▲ 車両の安全な通行に支障をきたすことのないよう、必要に応じ、隅切り等を行います。

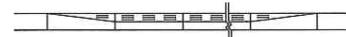


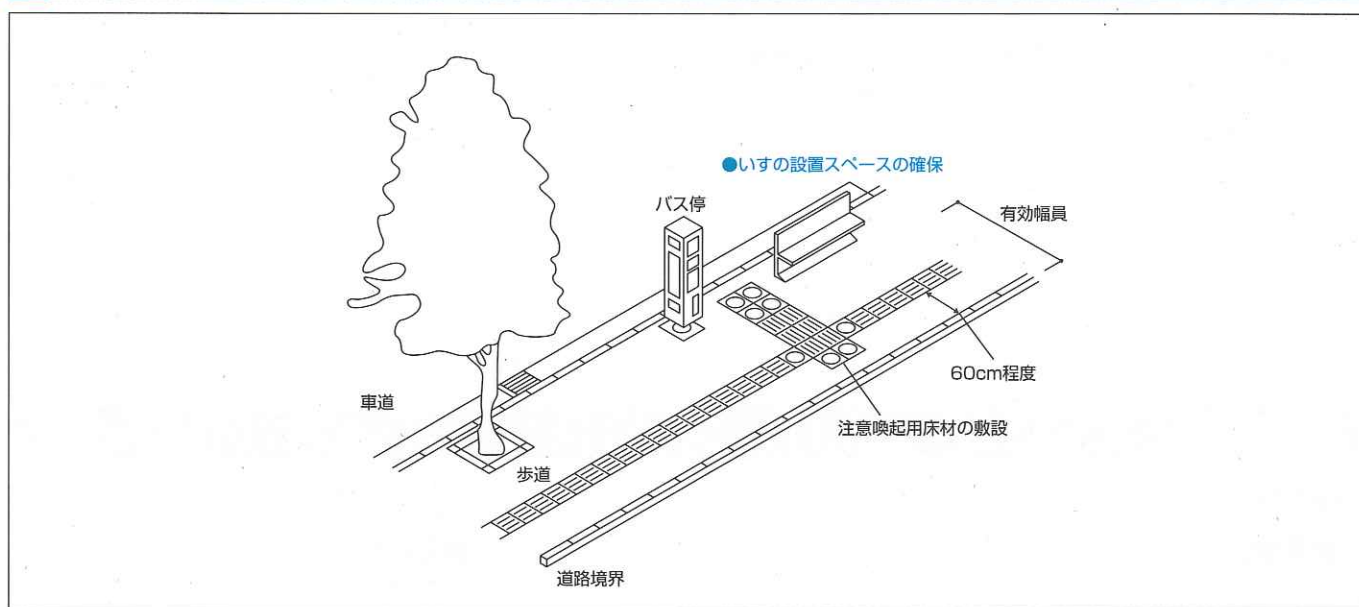
※特殊縁石

断面図

特殊縁石

正面図



いす及びバス停留所 (P.157 (バス停留所・タクシー乗り場・路面電車停留所) 参照)**視覚障害者誘導用床材、注意喚起用床材敷設例** (P.169 (視覚障害者誘導用床材・注意喚起用床材) 参照)